



PHOTO SPOT

上武大学附属図書館

上武大学の伊勢崎キャンパスと高崎キャンパスにある両図書館は、合わせて20万冊以上の蔵書を誇ります。一般書に加え、スポーツ、医療、ビジネスに関する専門書が充実しているのが特長です。また、「Web選書」や「選書ツアー」を開催し、学習に必要な図書や、薦めたい図書等、学生目線で選んだ本が配架されています。そのため、利用者のニーズに合った書籍が多くそろい、学習意欲を高める環境が整っています。さらに、落ち着いた空間でじっくり読書や自習ができるため、利用者の知的探求を支える重要な役割を担っています。



CONTENTS

- 研究会報告 令和6年度第1回大学図書館研究会 2
- 報告 全国大学ビブリアバトル2024 3
- 図書館訪問 「群馬医療福祉大学図書館」編 5
- 編集後記 7

発行—2025年3月31日
<https://gdtk.lib.gunma-u.ac.jp>
編集—群馬県大学図書館協議会「会報」編集委員会
前橋市荒牧町4-2(群馬大学総合情報メディアセンター内)
TEL.027-220-7180



研究会報告

大学図書館研究会・群馬県図書館協会専門研修 (群馬県大学図書館協議会・群馬県図書館協会 共催)

○令和6年度第1回大学図書館研究会

日時：令和7年3月24日(月) 15時00分～16時30分

場所：群馬大学総合情報メディアセンター中央図書館 1階ラーニングコモンズ「アゴラ」

参加者：10名

講演：「図書館の危機管理、こんなときどうする？」

講師 中沢孝之 氏 (白河市立図書館～りぶらん～館長)

【概要】

講師の中沢氏から出されたトピック「図書館が受ける災害は何か?」「それが起こったら図書館はどうなるか?」「それにどう対応するか?」を具体的に掘り下げながら、グループワーク形式により参加者同士意見を出し合い検討を行いました。<人・資料・施設>を守るために、あらゆる時間帯やケースを想定しながら、個々の図書館が各地域特性や職員体制を踏まえて全職員で検討することの大切さが語られました。

また、中沢氏が館長を務める白河市立図書館にて実施される様々なイベントも、中沢氏や図書館職員と地域の方々との豊かな関係性が育まれていることが示され、日頃から図書館職員が利用者とコミュニケーションを取り、友好的な関係性を築くことで、いざという時にも相互に支援・協力体制が取りやすいことも事例を交えて紹介されました。



会場 群馬大学



講師 中沢孝之氏

【参加者の意見等】

- 地域の歴史を知って対策を考えるというのは目から鱗だった。
- とても勉強になった。普段からの利用者への挨拶や声がけが非常時に対してもとても重要なことだという学びを職員にも共有していきたい。
- 普段から、何も無い時からの災害を想定した準備の大切さを学んだ。
- 日頃漠然と考えていることが具体的にイメージでき、業務を行う際にすぐに活かしたいと思った。
- 危機管理マニュアルの作成に本研修を参考にしたい。
- 利用者との関係性が図書館運営に生きていることはとても大切だと感じた。
- あっという間の講演だった。もっとお話をお聞きしたかった。また参加者の方との情報交換をもっとしたかった。

報告

全国大学ビブリオバトル2024

今年度も群馬県大学図書館協議会ではビブリオバトルを開催しました。

全国大学ビブリオバトル関東Bブロック予選は、群馬大学（2024年10月24日開催）、育英大学・育英短期大学（2024年10月10日開催）、高崎商科大学（2024年9月18日開催）の3校で開催され、延べ30名の大学生が参加しました。どの大会も聴衆を惹きつけ本の魅力が伝わり、ディスカッションタイムでは活発な意見交換が行われ楽しい時間となりました。

各予選大会でチャンプ本を獲得した6名が、全国大学ビブリオバトル2024関東Bブロック決戦に進みました。今年度の関東Bブロック決戦は、2024年11月2日に群馬県立図書館にて開催されました。初めての高大連携企画として、高校生大会との同日開催となり、観覧者は延べ95名という大きな大会となりました。また運営も高崎商科大学図書館サポーターの学生と高校生のボランティアが協力して行いました。

関東Bブロック決戦では、大会レギュレーションに基づき、6人のバトラーが5分間の持ち時間の中で、本の魅力や自分の心に残った点などを発表しました。県立図書館ホールに集まった観覧者の前で、身振り手振りを交えたり、歌ったりと各バトラーは観覧者を惹きつけながら本の魅力を伝えます。その後のディスカッションタイムでは大学生、高校生、一般の方から多くの質問が上がり、読書の魅力を会場全体で共有することができました。今回の大会では多くの県民の皆さまと読書活動を楽しむことができました。

大学生大会でチャンプ本に選ばれたのは、群馬大学理工学部岩崎圭汰さんの『また、同じ夢を見ていた』（住野よる著）でした。岩崎さんは全国大学ビブリオバトル2024首都決戦の出場権を獲得しました。

全国大学ビブリオバトル2024（第15回全国大学ビブリオバトル）は12月22日、昭和女子大学にて開催されました。今年度は全国1,756名の学生がバトラーとして参加したビブリオバトルですが、その中から本戦出場資格を得た30名の学生が参加しました。本県では、チャンプ本獲得者の岩崎さんのほかに特別枠として、高崎商科大学短期大学部久保綾音さんが出場資格を得たため、2名の参加となりました。本戦は、セミファイナルとして、まず6ブロックに分かれ発表を行います。岩崎さん、久保さんとともにセミファイナルで堂々とした発表を行い、ディスカッションタイムでは観客とのコミュニケーションを取りながら本の魅力を伝えていました。残念ながらファイナル進出は逃しましたが、おふたりとも大変貴重な経験をしたようです。おふたりからビブリオバトル首都決戦に参加した感想をいただいています。ぜひご覧ください。ビブリオバトルは、群馬県の大学生が読書に親しむとともに、多くの学びを得ています。来年度も開催を予定しており多くの学生に楽しんでいただけるイベントにしたいと考えています。加盟館の皆さまにご協力いただきながら、大学生の読書活動を推進していきます。



©2024 Makiba Sakamoto

全国大学ビブリオバトル2024
決勝バトルの様子がYouTubeか
らご覧いただけます！



各地で開催されたブロック
予選やブロック決戦の様
子、本選レポートなどがま
とめられています。

首都決戦出場者から

本を語り、人に届ける——僕とビブリオバトル

群馬大学 岩崎圭汰



僕がビブリオバトルを知ったきっかけは、あるミステリー小説でした。事件の舞台がビブリオバトルの会場だったので。文章で表現されたビブリオバトルの様子はとても熱く、自分の好きなものを一生懸命紹介する姿に感動し

たことを覚えています。

そして今回、僕自身が大学代表として関東予選を通過し、全国大会に進むことができました。今振り返ってみると、自分の好きな本を準備して紹介するという過程はとても楽しかったです。自分は何に感動したのか？ どのセリフが好きなのか？ 作者はここで何を伝えたかったのか？ あの頃は気づかなかったけれど、今ならこういう意味だったのかもしれない——。ただ読むだけでなく、人に紹介するという行為を通して、より深く本と向き合うことができました。また、こんなふうで紹介したら面白いか

な？ インパクトがあるかな？ と、観客の姿を想像しながら工夫するのも楽しかったです。

ビブリオバトル以前は、読書は気が向いたときにする程度でした。しかし、この経験を経て、毎日寝る前に読書をするのが習慣になりました。今は、卒業旅行で訪れるフィンランドについての本や、メンタルヘルスに関する本を読んでいます。

もちろん、楽しいことばかりではなく、人に伝える難しさや、本の魅力を伝えきれなかった悔しさも感じました。しかし、この経験を活かして、これからも人に何かを伝え、楽しんでもらい、わくわくしてもらえようような挑戦をしていきたいと思っています。

最後になりますが、予選から全国大会への準備期間中、多くの方が発表練習に付き合ってくれたり、応援に来てくれたりしました。本当に素敵な人たちに囲まれていることに感謝するとともに、僕自身も、何か頑張っている人の背中を押せる存在になりたいと思っています。

「伝える」から「伝わる」へ——ビブリオバトルで成長した私のプレゼン

高崎商科大学短期大学部 久保綾音

ビブリオバトルへの参加は、ゼミの先生からのお話をいただいたことがきっかけでした。「人前で発表する」経験がほとんどなかったため不安もありましたが、先生の「自分の考えを多くの方に伝えられる良い機会になる」という言葉に背中を押され、挑戦を決意しました。

私が選んだ本は『努力は仕組み化できる（山根承子 著）』です。選んだ理由は、私自身が勉強やダイエットなどを継続する難しさを感じていたため、「努力」というキーワードに魅かれたからです。「努力＝我慢」のように誤解されがちですが、「努力」は自分自身の成長につながるポジティブな意味を持っていることを伝えたいと思いました。

練習の過程では、「伝える」と「伝わる」の違いを実感しました。単に話すだけではなく、ジャスチャーを交えて聞いている方々の関心を引くことや、強調点を明確にして話すなどの工夫を考えまし

た。これらを意識しながら繰り返し練習することで、「伝わる」ことを意識したプレゼン力を磨きました。東京で開催された決勝大会では、全国から集まったバトラーの方々がレベルの高いプレゼンを披露していましたが、彼らと肩を並べることができた経験は刺激的でした。

最初は、先生から勧められて参加することになったビブリオバトルでしたが、「やらされた」という気持ちよりも、「自分の成長につながる機会を得た」という前向きな気持ちで取り組むことで、たくさんの成長を実感することができたと思っています。中でも最大の成長は、堂々と自分の意見を伝えられるようになったことです。

ビブリオバトルで得た自信と経験を活かし、これからも積極的に学び続け、社会に貢献できるスキルを身につけたいと思っています。



図書館訪問

群馬医療福祉大学図書館 編

他大学の図書館をご訪問して館内をじっくり見せて頂く「図書館訪問」企画の第2回目は、群馬医療福祉大学図書館の様子をレポートします。

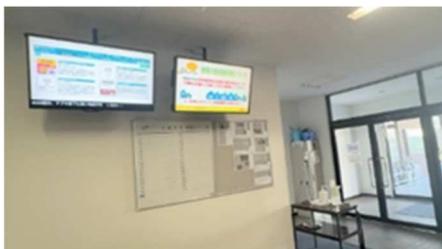
2月13日(木)に編集委員2人でお伺いし、2時間ほどかけて、本館と前橋プラザ分館を案内していただきました。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございます。隅々まで工夫が凝らされた館内は、案内表示がとても親切でわかりやすく、手作りの可愛い飾りも施されていて、職員の皆様の心の温かさが感じられました。

前橋本館

前橋市川曲町にある前橋キャンパスには、社会福祉学部、医療技術学部、短期大学部が置かれています。学生が利用するエントランスには、図書館の利用案内を表示するデジタルサイネージが2台設置されていました。



前橋キャンパス正門



デジタルサイネージ



図書館入口

閲覧席は予約制で、好きな席を選んで予約し、利用することができます。感染対策用品も用意されていて、医療系大学ならではの配慮がみられました。



閲覧席



キャレル席



閲覧席予約簿

カウンター周りには、職員手作りのしおりや、学生によるかわいらしい折り紙作品などが置かれていました。



図書館カウンター



学生による折り紙作品



コピー利用に便利な手作り葉

図書館訪問

群馬医療福祉大学図書館 編

(つづき)

OPAC端末のスクリーンセーバーが可愛かったです。パンフレット架の見出しを手作りされていて、真似したくなりました。掲示板には学生による美しい切り絵が飾られていました。



OPAC端末



パンフレット架



学生による切り絵作品

段ボール箱を活用して、利用者が手に取りやすいよう工夫が凝らされた雑誌架が目を引きました。書架にも親切な案内表示があり、初めて訪れる学生でもすぐに目当ての資料にたどり着けそうです。



雑誌コーナー



書架



新聞コーナー

図鑑、大型絵本、紙芝居の蔵書が充実していました。紙芝居は1冊ずつ専用のケースに入れて配架されていました。



図鑑



大型絵本



紙芝居

群馬医療福祉大学図書館は、前橋市川曲町の前橋キャンパスに「前橋本館」、前橋市本町の本町キャンパスに「プラザ分館」、藤岡市藤岡の藤岡キャンパスに「藤岡分館」の3つの図書館を有しています。(今回は、「前橋本館」と「プラザ分館」にお邪魔しました。)

群馬医療福祉大学図書館Webサイト
群馬医療福祉大学Webサイト

<https://www.shoken-gakuen.ac.jp/library/>
<https://www.shoken-gakuen.jp/university/>

図書館訪問

群馬医療福祉大学図書館 編

(つづき)

プラザ分館

前橋プラザ元気21内にある本町キャンパスには、リハビリテーション学部が置かれています。図書館は6階にあり、広々とした館内は、美しく整備されていて、閲覧席の窓からの眺めがすばらしく、うらやましい環境でした。



キャンパス入口



図書館入口



図書館カウンター



閲覧席



窓からの眺め



書架



雑誌架



特集コーナー



充電スペース



パソコン



雑誌バックナンバー

編集後記

新入生が期待と不安を抱えながら新たな生活をスタートする時期となりました。図書館に足を踏み入れ多くの本に囲まれると、これから学ぶ専門分野や世界の知識の広がりを見ることが出来ます。広大な未知の世界が広がる図書館で、今年も新入生をお迎えしたいと思います。